

## 特別講演 1

### 「身近にかくれている IgG4 関連疾患」

金沢大学附属病院 リウマチ・膠原病内科 科長

川野 充弘 先生

IgG4 関連疾患は、日本で提唱され確立された自己免疫性膵炎から派生した疾患概念である。IgG4 関連疾患の発見により、自己免疫性膵炎、ミクリッツ病、後腹膜線維症、炎症性大動脈瘤等の別々の名前と呼ばれていた疾患が一つの大きな疾患の一部を見ていたことが明らかとなった。IgG4 関連疾患は、一般に症状に乏しいこと、糖尿病を合併しやすく高齢者に好発することから、見落とされたり腎硬化症等の他の疾患と誤診されたりしやすい。腎領域では尿細管間質性腎炎を呈するが、IgG4 関連疾患の診断に辿り着かない場合や診断が遅れた場合、末期腎不全から透析導入となる症例もある。IgG4 関連疾患は、アレルギー疾患の合併が多く認められ、血清学的に高 IgG 血症、好酸球増多や高 IgE 血症を伴う症例が多いことから、これらの特徴をヒントに IgG4 関連疾患を疑うことが重要である。ステロイドが著効する疾患であり、早期発見のための疾患概念の普及が望まれる。